

## 浅間山噴火避難 初の想定

年 組 名前

長野、群馬県境の浅間山で防災体制づくりに取り組む「浅間山火山防災協議会」が、大規模噴火による避難者についての想定を初めてまとめました。噴火の際、避難者がどのくらいになるのか、記事を読んでみましょう。

①浅間山は、標高何メートルですか。

②同協議会は、大規模噴火による避難者を、両県合わせて最大何人と想定しましたか。噴火の規模は最大で、いつ起きた何という噴火を想定しましたか。

③想定では、「火砕流」と「火砕サージ」が起きた場合の避難者を、約10万7千人と見込んでいます。火砕流と火砕サージは、それぞれどんな現象ですか。( )に入る言葉を書きましょう。

「火砕流」— 高温の( )や( )などの混合物が時速( )以上で斜面を( )する。

「火砕サージ」— 高温の( )や火山灰の( )。

④火砕流と火砕サージの他に、どんな現象が起きた場合を想定しましたか。想定した現象と、それぞれの避難者の推計を書きましょう。

# 浅間山噴火避難最大19万人

30㌢以上の降灰 木造家屋倒壊恐れ

火砕流・火砕サージでも10万7000人

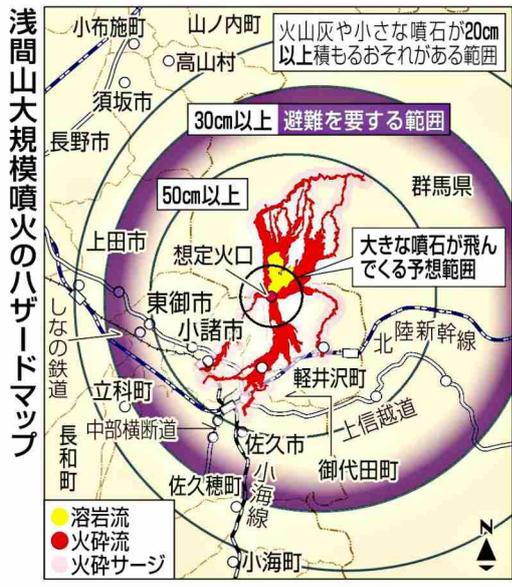
浅間山の火山現象と避難者の想定

	長野県	群馬県	計
降下火砕物 (30㌢以上の降灰)	約17万5000人	約1万5000人	約19万人
火砕流・火砕サージ	約9万2000人	約1万5000人	約10万7000人
融雪型火山泥流	約8万8000人	約6900人	約9万5000人
降下火砕物(軽石)	約3万3000人	約7400人	約4万1000人
大きな噴石 (20~30㌢以上)	—	約2000人	約2000人
溶岩流	—	約600人	約600人

協議会は両県や山麓の市町村(災害予測地図)を2018年などに構成。ハザードマップに作り、19年に「広域避難計画」を作成に着手した。基礎調査を進め、20年に都内のNPO法人「火山防災推進機構」に業務委託。火山現象ごとの避難者数や、自治体を越えた広域避難が必要かどうかを積算した。噴火の規模は、最大で平安時代の「天仁の大噴火」(1088年)並みを想定した。

## 火山防災協初の想定

長野、群馬県境の浅間山(2568㌢)で防災体制づくりに取り組み「浅間山火山防災協議会」が、大規模噴火による避難者について、両県合わせて最大約19万人に上るとの想定を初めてまとめたことが8日、分かった。最も避難者が多くなるのは、雨天時に重くなって木造家屋が倒壊する恐れがある「降下火砕物(厚さ30㌢以上の降灰)」があった場合。長野県で約17万5千人、群馬県で約1万5千人が避難するとしている。



「画」作成に着手した。基礎調査を進め、20年に都内のNPO法人「火山防災推進機構」に業務委託。火山現象ごとの避難者数や、自治体を越えた広域避難が必要かどうかを積算した。噴火の規模は、最大で平安時代の「天仁の大噴火」(1088年)並みを想定した。

想定によると、高温の火山灰や岩石などの混合物が時速数十~100㌢以上で斜面を流下する「火砕流」と、高温の火山ガスや火山灰の暴風「火砕サージ」が起きた場合の避難者は約10万7千人と見込んだ。

山腹に積もった雪が火砕流などの熱で解けて斜面の土石を取り込みながら時速数十㌢で流れ下る「融雪型火山泥流」が生じたときの避難者は約9万5千人。細かい穴の開いた「降下火砕物(軽石)」が飛散した場合、約4万1千人を大収容人数は佐久市が5万320人、小諸市1万330人、御代田町2133人で、2万8837人を受け入れられる軽井沢町以外は不足し、広域避難が必要になる計算だ。

協議会は21年度、地域住民の避難方法や避難経路、避難先について検討する。協議会メンバーの荒牧重雄・東大名誉教授(火山学)は「大規模噴火はあくまで数百年に一度の想定だが、広域避難計画をしっかりと立て意識を高めておく必要がある」としている。

## 浅間山噴火避難 初の想定

## 解答例

年 組 名前

長野、群馬県境の浅間山で防災体制づくりに取り組む「浅間山火山防災協議会」が、大規模噴火による避難者についての想定を初めてまとめました。噴火の際、避難者がどのくらいになるのか、記事を読んでみましょう。

①浅間山は、標高何メートルですか。

【解答】 2568m

②同協議会は、大規模噴火による避難者を、両県合わせて最大何人と想定しましたか。噴火の規模は最大で、いつ起きた何という噴火を想定しましたか。

【解答】 約19万人に上る

## 平安時代の「天仁の大噴火」(1108年)

③想定では、「火砕流」と「火砕サージ」が起きた場合の避難者を、約10万7千人と見込んでいます。火砕流と火砕サージは、それぞれどんな現象ですか。( )に入る言葉を書きましょう。

「火砕流」— 高温の( 火山灰 )や( 岩石 )などの混合物が  
時速( 数十~100km )以上で斜面を( 流下 )する。

「火砕サージ」— 高温の( 火山ガス )や火山灰の( 暴風 )。

④火砕流と火砕サージの他に、どんな現象が起きた場合を想定しましたか。想定した現象と、それぞれの避難者の推計を書きましょう。

【解答】 「融雪型火山泥流」が生じたとき 約9万5千人

「降下火砕物(軽石)」が飛散した場合 約4万1千人

「大きな噴石」が飛んだ場合 群馬側だけで約2千人

「溶岩流」が起きた場合 群馬側だけで約600人